



大原冬に入る [京都府京都市左京区大原] 1966年

向井潤吉 民家

人と生活の風景

2002年8月3日[土] → 11月24日[日]

■開館時間=午前10時~午後6時(入館は5時30分まで) ■休館日=毎週月曜日(ただし祝日と重なった場合は翌日)
■観覧料=一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円) 65歳以上及び障害者の方100円(80円)
()内は20名以上の団体料金 土・日・休日は小・中学生は無料

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

人と生活の風景

向井潤吉 民家



遅れる春の丘より [長野県北安曇郡白馬村北域] 1986年



遅春 [岩手県岩手郡玉山村淡民] 1972年



奥丹波の秋 [京都府船井郡丹波町] 1969年



雨後千曲川 [長野県下木内郡豊田村豊津庵] 1977年

向井潤吉先生は、1901年（明治34）、京都下京区に生まれました。さまざまな歴史的な積み重ねによって、格別な風格と、落ち着いた町並みを形成してきた古都に育った向井先生は、日本の伝統と、そこに育まれた美を、日常生活のうちに享受されていたことでしょう。また先生の父親は宮大工であり、後年、調度品を製作する工房を営むようになりましたが、そこに働く職人たちとの交流もまた、幼年から少年期の向井先生に多大な影響を与えていたことも、想像に難くありません。とはいえ、古都を取り巻いている風景は、土に糧を育てる人々が暮らす田園でありました。町と田園が寄り添いながら、人々の生活が支えられていることを肌身に感じられながら、向井潤吉先生は育たれたのだといえましょう。

絵を描きたい、という純粋な思いから向井先生が関西美術院に学ぶようになったのは、15歳の時のことでした。京都には多くの日本画家が住まわれていましたが、向井先生は早くから洋画に強い関心をいだかれたようです。とくに人物画には強い興味をもち、初期の作品、また昭和初期に滞欧されていた時期の作品には、人物画が目立ちます。

戦前には二科会を中心に発表を重ね、写実的な画風の中に、西洋美術と対峙された滞欧時期の研究成果が根底としてひろがり、さまざまな試行を重ねつつ、先生は画壇における地歩をかためていかれました。そして、後年、先の大戦を経て、向井先生は「民家」という画題を見いだされました。

一見すると民家を題材とする絵画は、風景画の範疇にあるものです。しかし、民家を題材として絵画を描くということは、民家に人間生活が深く絡みついていることを強く認識することにつながり、また、人間生活を抜きにしては、民家だからこそ持ち得る、生き生きとした精彩ある表情を描き出すことはできないでしょう。

人間を見つめて人物画を制作してきた向井潤吉先生にとって、民家という題材は、風土や環境の中で暮らす人間を総合的に捉えているという点において、たいへん好ましく、そしてさまざまな要素を孕んだ画題であったといえるのではないのでしょうか。民家そのものの造形的な美の中に、向井先生が見出された奥深い人間生活と、風土の中に根付いてきた風景としての民家は、究極的には人間を描くことにつながっているように思えます。



残雪と柿 [新潟県中頸城郡妙高村圓山] 1966年

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

- 最寄り交通機関のご案内
- 東急田園都市線【駒沢大学】駅 西口 下車／徒歩10分
 - 東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車／徒歩17分
 - 東急バス（渋05）渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車／徒歩3分
 - 東急バス（等11）祖師谷折返所～等々力【駒沢三丁目】 停留所下車／徒歩3分
 - 東急バス（渋11）渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分
 - 東急バス（渋12）渋谷～二子玉川 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分

